



平成 18 年 11 月 30 日

各 位

会 社 名 アルゼ株式会社
代表者名 代表取締役兼最高経営責任者（CEO）
余語 邦彦
（JASDAQ・コード 6425）
問合せ先 取締役 堀 義人
電話番号 03 - 5530 - 3055 (代表)

当社子会社（株式会社セタ）の中間期・通期業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ

当社子会社である株式会社セタは、平成18年5月24日付同社「決算短信」及び「個別財務諸表の概要」にて発表いたしました同社の平成19年3月期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）の中間期及び通期の業績予想につきまして、別添資料のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

以上



平成 18 年 11 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社セタ
代表者名 代表取締役社長 河合 宏昌
(J A S D A Q ・ コード 4 6 7 0)
問合せ先 管理部長 高橋 勇武
電 話 03 - 3599 - 2520(代表)

平成 19 年 3 月期中間期・通期業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ(連結・個別)

当社は、平成 18 年 5 月 24 日付当社「決算短信」及び同日付当社「個別財務諸表の概要」にて発表いたしました平成 19 年 3 月期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)の中間期及び通期の業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 19 年 3 月期中間期業績予想の修正

(1) 中間期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

<連結>

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	2,031	12	6
今 回 修 正 (B)	3,333	641	560
増 減 額 (B - A)	1,302	629	554
増 減 率	64.1%		
(参考)前年同期実績	794	444	980

<個別>

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	2,000	6	1
今 回 修 正 (B)	3,261	626	556
増 減 額 (B - A)	1,261	620	555
増 減 率	63.05%		
(参考)前年同期実績	763	453	989

(2) 修正理由及び特別損失の発生

当社は、平成 16 年 4 月 1 日付でネットワーク関連のソフトウェア・ハードウェア開発、保守サービスに関し経験豊富なユーディテック・ジャパン株式会社を吸収合併し、通信関連事業を新たに立ち上げました。以降、IP 電話向け交換機機能を有する SIP サーバ「BaMBoo Link」(「BBL」)の開発を推進してまいりましたが、この度、「BBL」を本格的な企業向けコンピューター・テレフォニー・インテグレーションシステムのプラットフォームシステムとして、当社の親会社であるアルゼ株式会社に納入し、当初の売上・利益計画を大幅に上回る見込みとなりました。

遊技機関連事業においては、遊技ホール数の減少、検定切れ遊技機の撤去、入替に伴う遊技ホールの負担増等の厳しい事業環境のなか、当社の主力商品であるパチンコ・パチスロ機向け多機能型セタ IC カードシステムの加盟店が先期末時点の 158 店舗から当中間期末には 217 店舗へと順調に増加し、当初の売上・利益計画を達成する見込みであります。

また、ゲーム機器関連事業(映像コンテンツ開発)におきましても、遊技機向けの映像開発業務に加え、家庭用ゲーム向けの映像開発業務を受託し、当初の計画を達成する見込みです。

以上の結果、今中間期の業績は、売上高において約 1,300 百万円増の 3,333 百万円、経常利益において約 630 百万円増の 641 百万円と、それぞれ当初の予想を大幅に上回る見通しとなりました。当期純利益は、滞留しておりました売掛金債権、棚卸資産等の償却費 84 百万円を特別損失に計上し、当初の予想に対し約 550 百万円増の 560 百万円となる見通しです。

(3) 通期(平成 18 年 4 月 1 日~平成 19 年 3 月 31 日)

<連結>

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,864	280	208
今回修正(B)	5,807	780	634
増減額(B - A)	943	500	426
増減率	19.3%	178.5%	204.8%
(参考)前年同期実績	2,705	739	1,407

<個別>

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	4,800	267	196
今回修正(B)	5,743	767	632
増減額(B - A)	943	500	436
増減率	196.4%	187.2%	222.4%
(参考)前年同期実績	2,621	764	1,406

(4) 修正理由

遊技機関連事業においては、当第 3 四半期以降も引き続き厳しい事業環境が継続すると予想されますが、上期に引き続き直販による提案型の営業活動を推進し、加盟店の獲得に努めるとともに、代行店等の協力会社とより密接な連携をはかり新たな販売ルートの開拓に積極的に取り組むことにより、当初の売上計画を達成する見込みであります。

通信関連事業においては、上述の今中間期における「BBL」の納入により、当初の売上計画を大幅に上回る見込みであります。

ゲーム機器関連事業（映像コンテンツ開発）においては、当第 3 四半期以降も遊技機向けの映像開発業務、家庭用ゲーム向けの映像開発業務を継続して受託し、当初の売上計画を達成する見込みであります。

以上の結果、今期の業績は、売上高において約 940 百万円増の 4,864 百万円、経常利益において約 500 百万円増の 780 百万円、当期純利益において約 420 百万円増の 634 百万円と、それぞれ当初の予想を大幅に上回る見通しとなっております。

以上